



ねえねえ お・し・え・て!!



お悩みそーだんしつ

Q ■ 今回のお悩みは…こどものおこづかい、みんなどうしているのかな?

小学校2年生の息子の友達の中には、おこづかいをもらっている人が何人かいます。そんなことを知ってか知らずか、最近、息子も「おこづかいがほしい」と言うようになりました。私としてはまだ必要ないように思うのですが、ほかのご家族ではどうされているのか気になります。
(四日市在住 Y.M)

おこづかいを渡す前によく話し合しましょう

おこづかいをいつから与えるかについては、各家庭の事情があるかと思います。与える時は、周りの子どもたちがもらっているからというのではなく、①お金の大切さを話す ②子どもがどんなお店に行くのかを知る ③一人で買い物をするのか、お友達の誰と行くのかを把握する、などの配慮が大事ではないでしょうか。

おこづかいをもらって買い物をするのは、とても楽しいことです。限られた金額のなかで、自分の欲しいものをどれだけ買うことができるのかを考え、また、おこづかいが足りなくて買えないときには我慢することも覚えます。そして小さな社会や経済の勉強にもなります。

おごったり、おごられたり、ときには品物を盗んでも罪悪感がないことなど、低年齢化してきています。おこづかいを与える前に、ご家族で子どもとよく話し合う必要があると思います。
(商店主)

わが家流その1

学用品や子どもに関するものは親が用意しているので必要ないと思い、毎月決まったおこづかいは渡していません。たまにお使いに行ったり、お手伝いをしてくれた時にお駄賃(ごほうび)として小額渡すことはあります。子どもは貯金箱にそのまま貯めています。
(小4の母)

わが家流その2

お金をもって遊びに行くことやお金を使う経験をさせていないためか、まだおこづかいを欲しがっていません。お手伝いをしたからといってお金を渡すのも抵抗があります。
(小2・3の母)

わが家流その3

毎月決まったおこづかいはないけれど、お年玉から少しまとまった金額を子どもに渡し、管理させています。無駄遣いしないかなど、親の心配をよそに、意外と考えて計画的に使っているようです。
(小5の母)

「お金」についてきちんと話そう

おこづかいを渡す渡さないに関わらず、おこづかい=お金とはどういうものかを子どもと話し合うことが大切だと思う。親や祖父母が働いて得たものであって、自然と湧いてくるものではないということ。低学年から教えておくべきではないだろうか。
(40代・父)

おこづかいを使った後が大事です

あげっぱなし、渡しっぱなしではなく、使い道を知っておくことが大事だと思います。おこづかい帳などその家庭ごとのルールをつくり、話し合っておくことが大切ではないでしょうか。
(2児の母)

お母さんのネットワークを広げて

子どものおこづかいの額を決めるのは難しいですね。学級懇談会のおこづかいの話題が出たこともありましたが、具体的な金額までは聞きづらいものでした。私の場合は、親しいお母さんたちと情報交換をして参考にしました。
(中1の母)

まわりに惑わされず、わが家流のおこづかいの与え方を考えましょう。



編集部より 皆様のご意見やご感想、子育てのお悩みなどををお寄せください。お待ちしております。